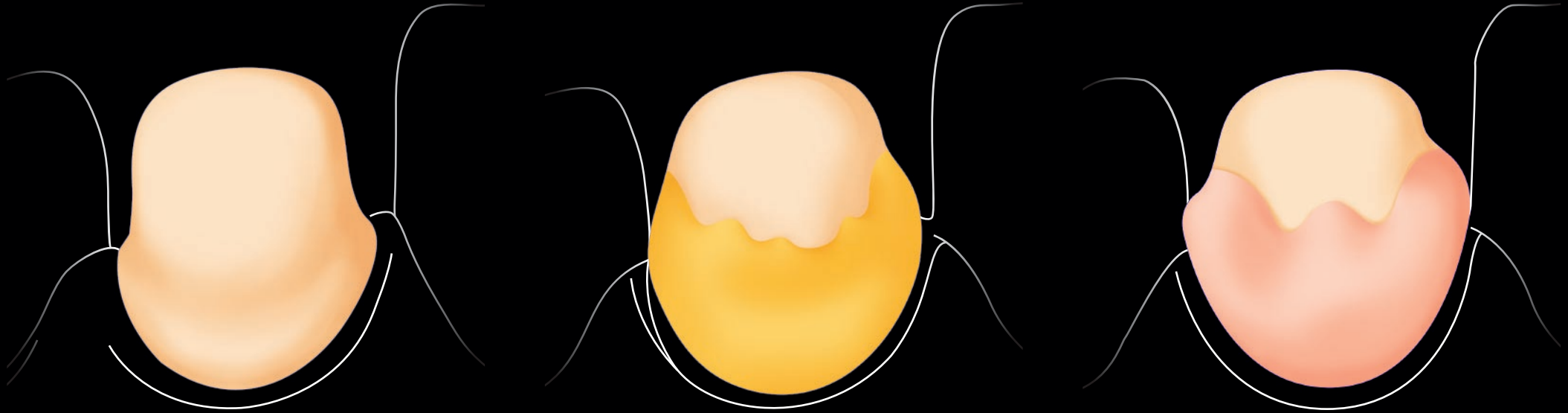


ACCENT.

STEP.1



■ Opaque

■ Opaque
■ Opaque Dentine

■ Opaque
■ T-Salmon

STEP.1



Cervical Accent

STEP.1 Opaque Dentine築盛後、T-Salmonを築盛した状態

- ・ Opaque Dentineは、築盛が薄くなる歯頸部付近のオパーク色の浮上りを防ぎ、薄い層でデンティン色の彩度が得られます。
- ・ T-Salmonは、歯頸部付近の透明感のあるピンク系の色調表現に使用します。

混合法

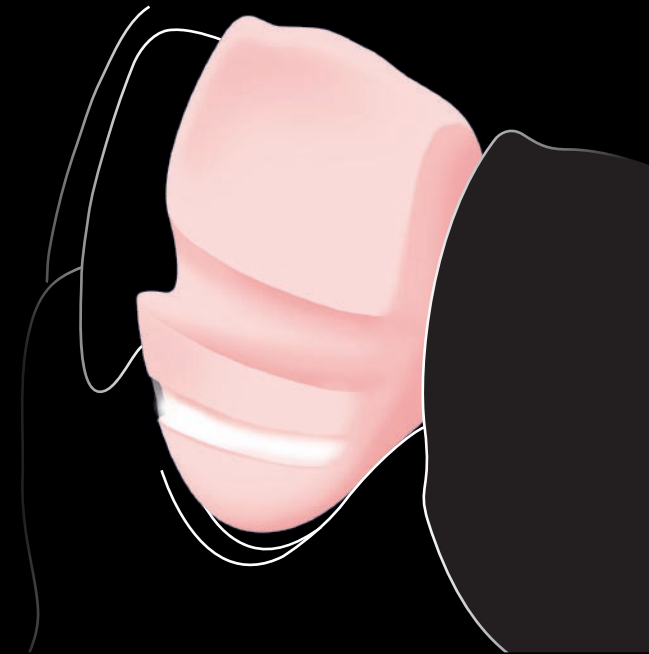
- ・ 歯頸部付近の厚みが十分に確保できない症例では、Opaque DentineとT-Salmonを混合(3:1)して使用してください。

複層法

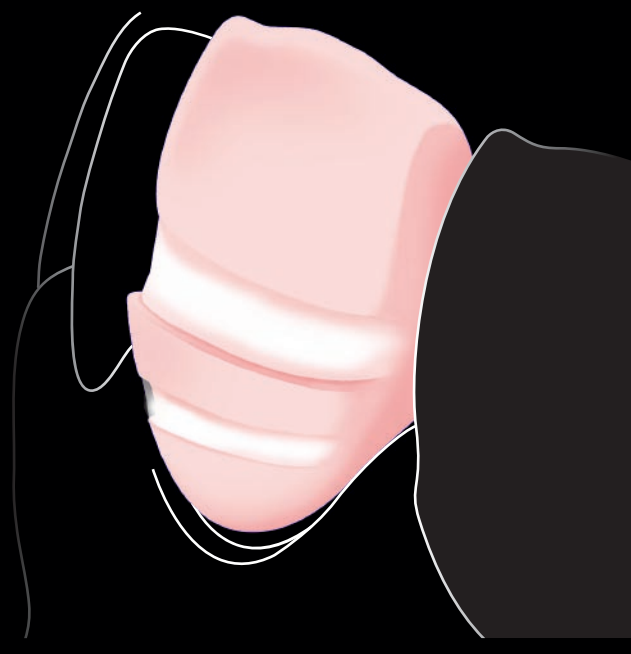
- ・ 歯頸部付近の厚みが十分な症例では、Opaque DentineとT-Salmonを2層築盛してください。

ACCENT.

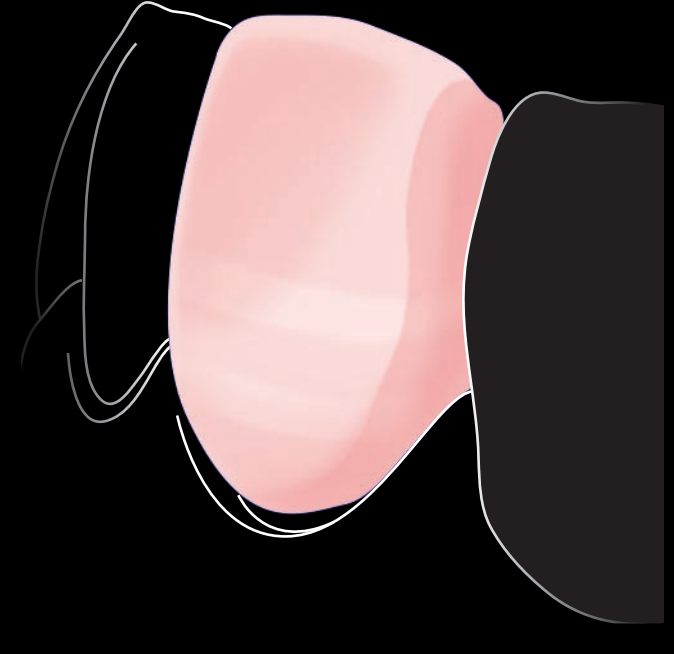
STEP.2



■ Dentine
■ Snow White



■ Dentine
■ Snow White



■ Dentine
■ Snow White

STEP.2



白帯:1本目



白帯:2本目

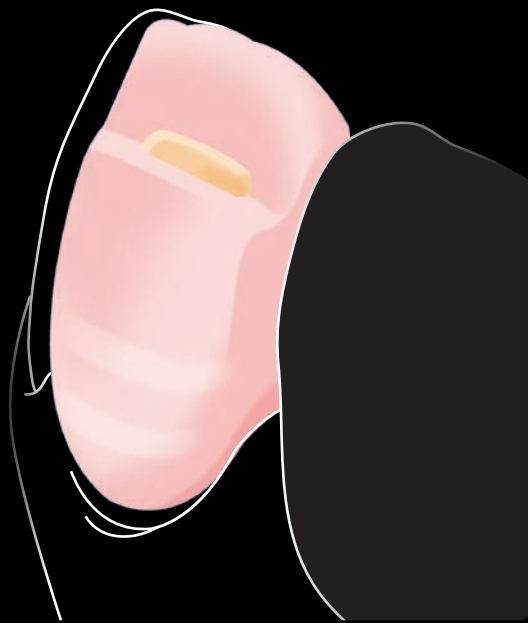
White Accent

STEP.2

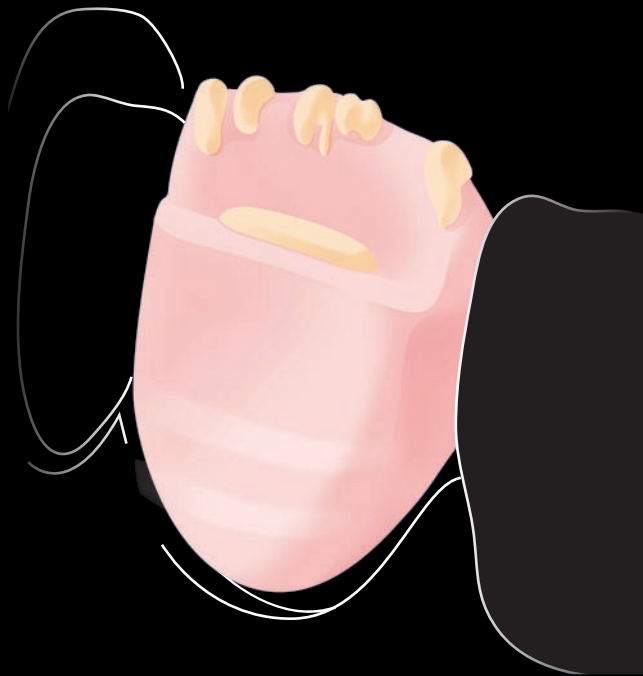
- ・ 通常のカットバックが終了した後、Dentineの歯頸部付近に白帯を付与するため、凹カットバックを行いSnow Whiteを築盛し、さらにDentineにて挟みこみ築盛を行います
- ・ 白帯を弱めたい場合はEnamelを、逆に白帯を強めたい場合はWhiteを適量混合して使用します。

ACCENT.

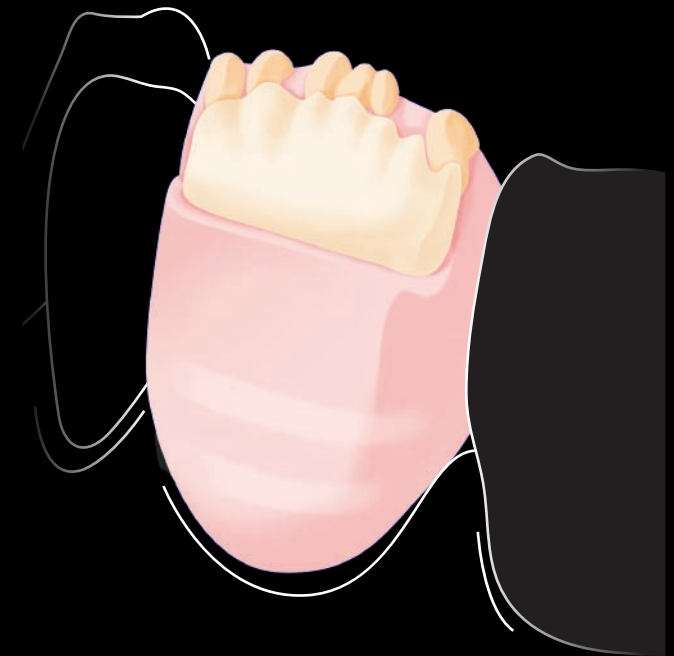
STEP.3



- Opaque
- Dentine



- Opaque
- Dentine
- Mamelon-Orange



- Dentine
- Mamelon-Orange
- Mamelon-Vanilla

STEP.3



Mamelon Accent

STEP.3

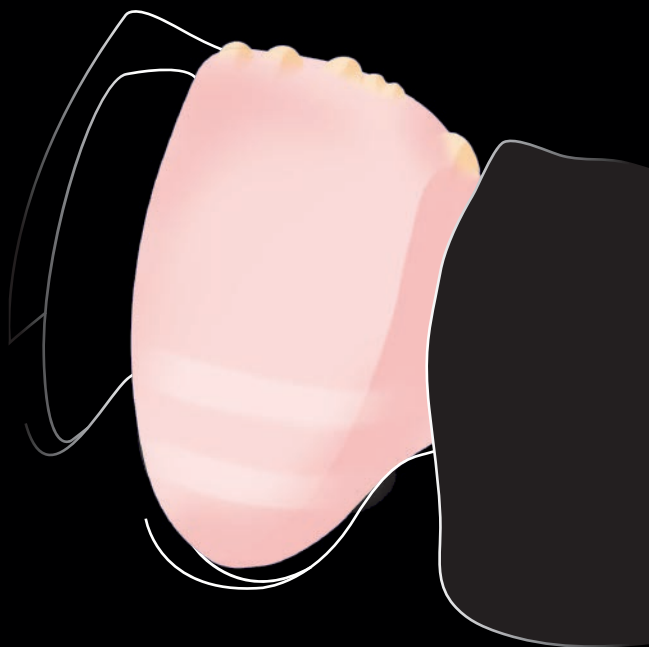
・切縁側のDentineをセカンドカットバックし、マメロンの先端部分へMamelon-Orangeを築盛し、次にMamelon-Vanillaを薄く築盛します。

※セカンドカットバック時に、オパークが見えても問題ありません。

- ・ Mamelon-Orangeは、天然歯象牙質切縁の不透明層の再現とオパール効果に有効です。
- ・ Mamelon-Vanillaは、天然歯象牙質中心部にある不透明層の表現と切縁部での色調変化に有効です。

ACCENT.

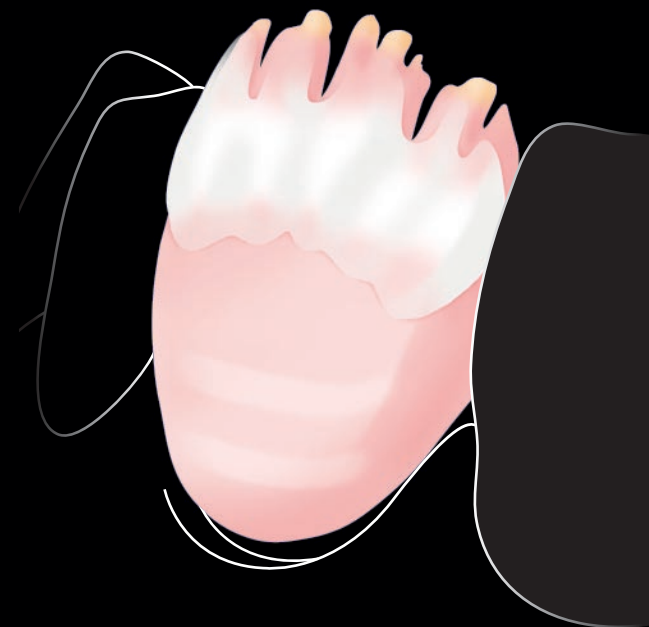
STEP.4



- Dentine
- Mamelon-Orange



- Dentine
- Mamelon-Orange
- Snow White



- Dentine
- Mamelon-Orange
- Snow White

STEP.4

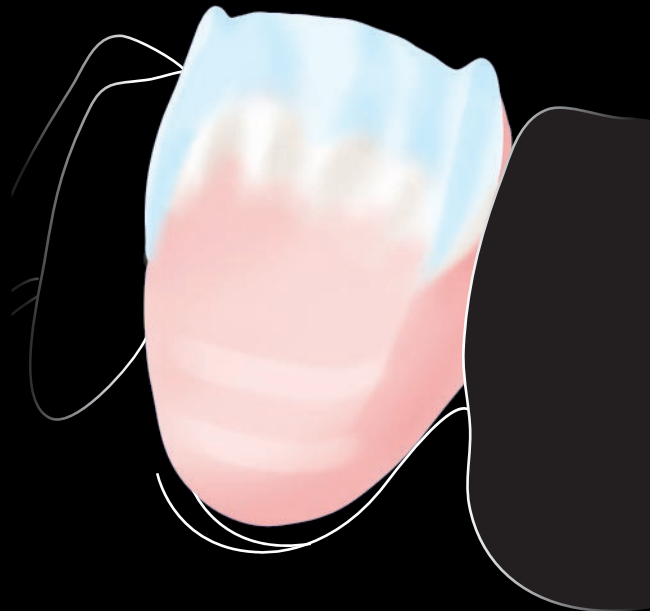


Internal Accent

STEP.4

- ・ Mamelon-Vanillaの上に再度Dentineをカバーし形態を回復します。
明るいエナメル層を表現するためにSnow Whiteを築盛後、最終の象牙質形態にするため、Dentineのマメロン形成を行います。

STEP.5



-  Dentine
-  Snow White
-  Opal 1

Opal Accent

STEP.5



STEP.5

- ・透明層を表現するためにマメロンの先端や谷間に Opal 1を築盛します。

STEP.5



反射光

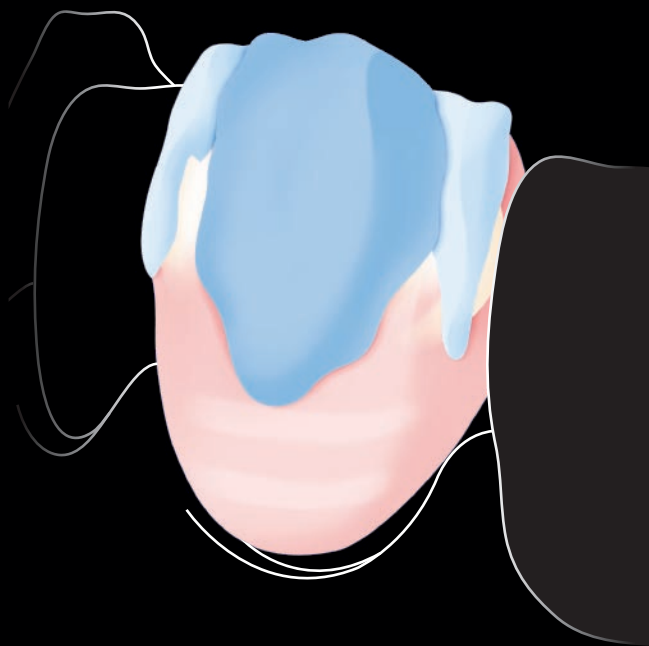


透過光

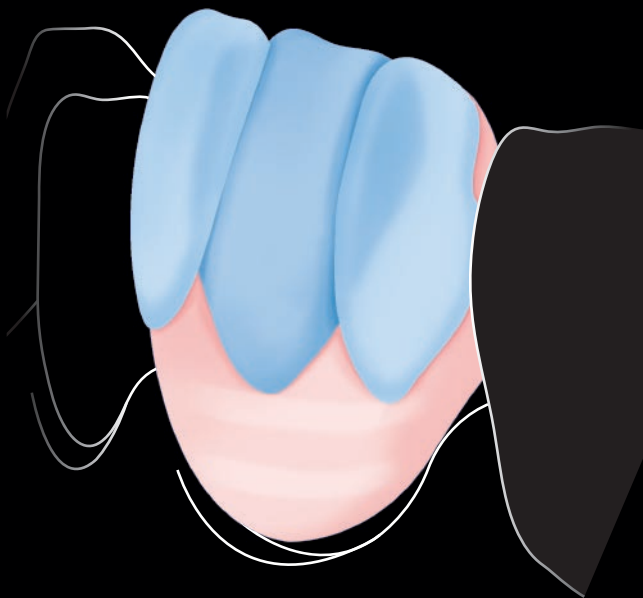
Opalescence

- ・ 反射光では淡いブルー色の、透過光ではオレンジ色のオパール特性を表現することができます。

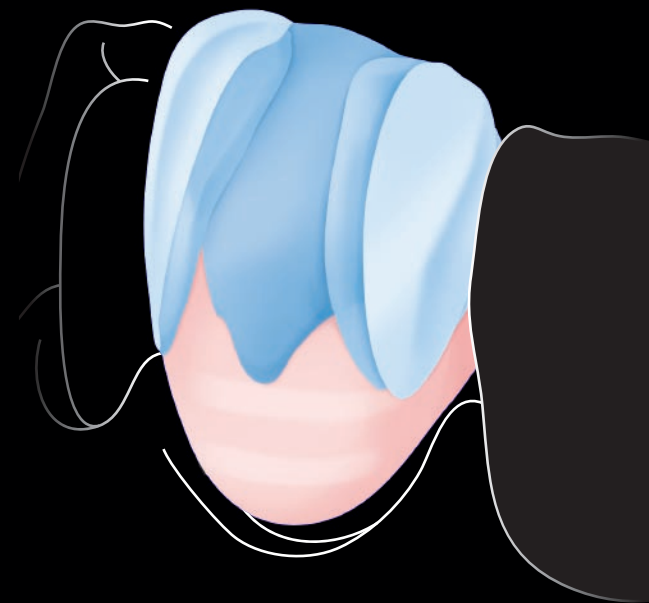
STEP.6



- Dentine
- Opal 1
- E-3

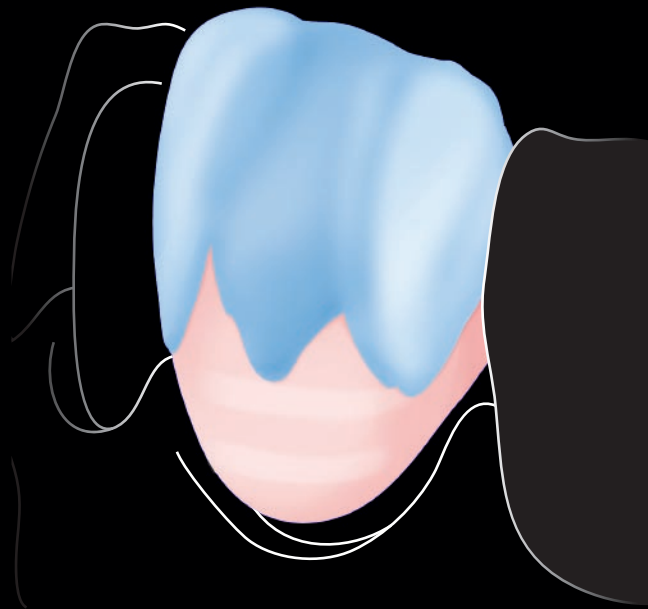


- Dentine
- E-3
- E-2



- Dentine
- E-3
- E-2
- E-1

STEP.6

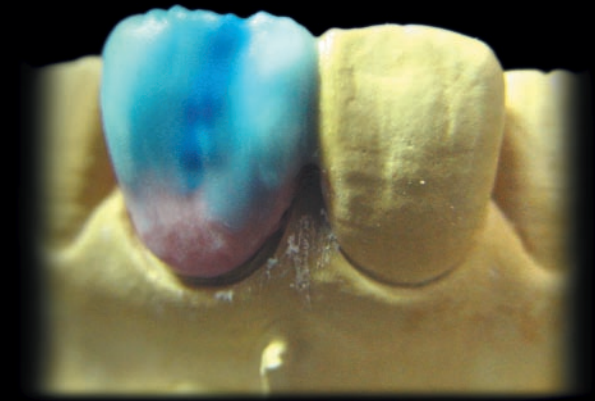


- Dentine
- E-1
- E-3
- E-2

Enamel

STEP.6

- ・エナメル層に透明感の変化を付与するために、明度・彩度の異なった3種類のEnamelを使用します。
ベースのエナメル色がE-2またはE-1の色調の場合は、透明度の異なる白色系のSnow White及びWhiteを使用し、エナメルの透明感を表現します。



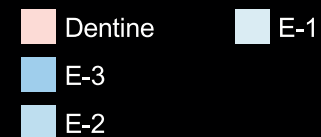
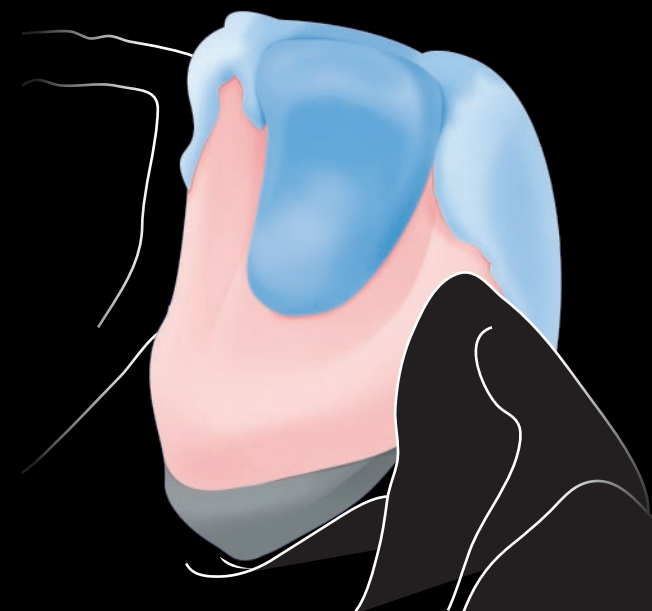
STEP.7



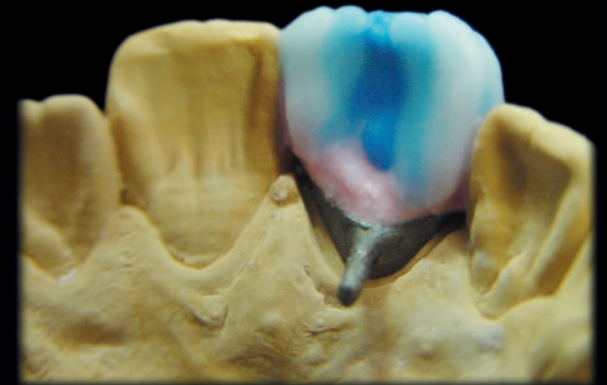
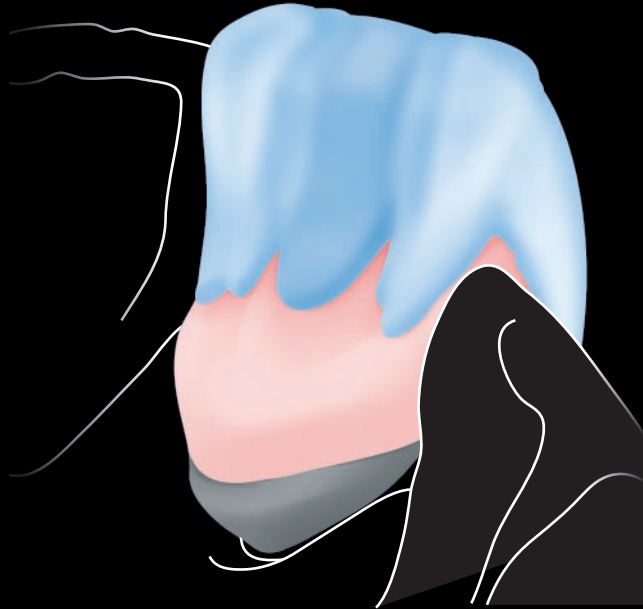
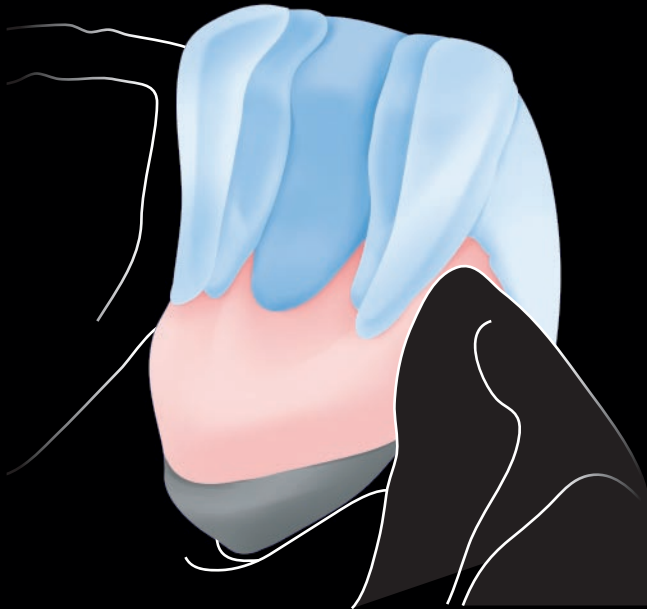
Internal Orange Accent

STEP.7

- ・T-Amberを舌側の先端中央部に飴色の表現として使用します。その上に唇側と同じく、明度・彩度のグラデーション効果を出すために、3種類のEnamelを築盛します。T-Amberは、T-Bufferよりも鮮やかなオレンジ系透明色で、前歯部、臼歯部のオレンジ系透明色の表現に使用します。



STEP.7



- Dentine
- E-1
- E-3
- E-2

- Dentine
- E-1
- E-3
- E-2

これらのアクセント陶材を使用することで、天然歯と同様の色調表現が可能となります。





Finished Goods